D 19　服装から想定された性格

姫路短大　○土井千鶴子　愛知学泉女短大　倉橋久子
市邦学園短大　早川照子　愛知淑徳短大　土田正子

目的　服装は非言語情報伝達の媒体として大きな役割を果しており、その伝達内容の一つにパーソナリティ特性がある。本研究では前報*に引き続き、ある服装を好んでする人はどのような性格であると思うかを測定することによって、人々が服装と性格の間に想定している関連性を明らかにすることを目的としている。

方法　呈示した性格評定用語は前報と同じく11対である。服装は前報では言語で行ったが、今回はスライドにより直接視覚に訴えた。即ち、前報で服装から推測される性格のうち、評定値の差の大きなものから11対を選び、それに近い服装を服装雑誌中から5組ずつ選定した。予備調査で20名の被験者に順位づけをしてもらい、所定の服装に最も近いものを呈示試料とした。調査方法などは大体前報と同じである。解析は各服装について評価の平均値から T 検定により有意差を調べ、さらに数量化理論第Ⅲ類による分析を行った。

結果　服装特性から有意に推測されやすい性格は「保守的な—進歩的な」、「支配的な—服従的な」、「活発な—おとなしい」で、服装特性と性格特性の組合せ121セル中、信頼性のある評定は前報の言葉による場合が66%、今回は67%で、よく似た傾向が認められた。数量化理論第Ⅲ類による分析結果では4軸まで抽出したが、1軸と3軸に有効な意味を見出した。即ち、1軸は「外向性—内向性」、3軸の意味は若干あいまいであるが、「親近性」を判断する軸と解釈された。1軸について各服装のサンプルスコアーの平均値を求め、プロットしたところ、派手、明るい、個性的、大胆な服装は外向性の強い人が好んで着ると想定されることがわかった。

* 藤原康晴；繊維機械学会誌，40，279（1987）